

イクメンエピソードコンテスト 受賞者のエピソード一覧

No	ニックネーム	タイトル	エピソード	出身	賞
10	コチカラ・パパ	カバンに泥だんご	<p>今日もスーツをピシッと決め出社、デスクに就くといつも通りお気に入りの英国製バックを開き、書類を取り出した、いや出そうとした。す、す、すると中には「泥だんご」、しかも半分以上が崩れていて書類は砂だらけ。一瞬、頭が真っ白になったが、すぐに気が付いた。「どうやら、保育園の園児たちの仕業だ」と。</p> <p>息子を保育園に送るのは僕のシゴト。で、ついつい保育園に着くと、園庭で園児たちと軽く遊んでしまう。そして、仲良くなった「園児友」たちが、「ねえ佑君パパ、すごいでしょ」と、自慢げに泥だんごを見せびらかせる日々が続いた。そしてとうとう、それが僕のカバンに。</p> <p>翌朝、「犯人」らしき園児に優しい笑顔で聞いてみた。「きのう、おじさんのカバンに泥だんご入れた？」園児からは「あ、それ僕だよ。いつも遊んでくれている佑君パパへのプレゼントだったんだ。」</p> <p>僕は、ひきつった笑顔で「ありがとう」というのが精一杯だった。</p>	神奈川県	優秀賞
67	大師	育児一年生の夫	<p>私が出産する前は、育児や家事を全くしなかった夫。出産後、私が就職することになり、夫が嫌々ながらも育休を取ることに。</p> <p>一年間、嫌々ながら育児家事をやるかと思いきや、後半はイクメンスクールに行ったり料理教室に行ったり、育休を楽しんでいた。</p> <p>そんな夫ももうすぐ育休が終わる。一年間の育児家事の感想を、夫に聞いてみると、「いや～、ほんと充実した一年だった。育休は家庭内留学だよ。家事・育児を一からしっかり勉強できた。娘が無事に成長していることと、お前の笑顔が、僕の育休の卒業証書かな。」</p> <p>育休取るだけで、こんなに夫は変わったんだ。自然と涙があふれた。</p>	東京都	優秀賞
28	早起き鳥	いつまで続く？読み聞かせ	<p>「読み聞かせ」がよいというので、娘が年中さんの頃から、私の図書館通いが始まった。毎週限度いっぱい10冊の絵本を借りてきて、毎朝出勤前の15分、娘に本を読んで聞かせた。はじめは、面白い絵本ばかりを選んでいたら、娘が成長するにつれて、絵本から絵が少なくなり、戦争の愚かさを伝える話や障害を持つ人の苦しさを伝える話なども加えていった。</p> <p>その話を聞いて娘が涙ぐんだりする姿に、成長をひしひしと感じる、そんな貴重な時間であった。その効果があったのか、娘は本が大好きで、今では一緒に図書館でたくさん本を借りに行き、本に親しんでいる。小学校に入ってからは、娘は毎年百冊を超える本を読んでいる。本当に立派に成長しているな、と実感し、読み聞かせをした甲斐があったな、と思う。しかし、習慣とは恐ろしい。</p> <p>朝のあわただしさの中、いまだに娘は「パパ、本読んで！」とおねだりしてくる。娘は来年小学4年生。もう読み聞かせはいらないのでは？と思いつつ、娘の成長をこれからも感じていきたいと思う今日このごろである。それにしても、私は一体何冊の本を、娘に読み聞かせることになるのだろうか？</p>	京都府	優秀賞
37	LOVEレミロ	パパがママ！？	<p>現在、6歳の女の子と3歳の女の子の父親です。なぜ、このようなタイトルをつけたのかはエピソードを読めば分かっていただけだと思います。始まりは、1年前の2011年1月に遡ります。ある日こう言われました。「6月から半年間勉強したいことがあるから学校へ行ってもいい？」妻は看護師で、ある分野の認定看護師になることが独身時代からの夢でした。ところが、学校に行くまでに半年試験勉強。受かったとしても毎日学校で、課題も山ほどあり、子供たちのことを全然見てあげられないという問題がありました。しかし、妻は三交代しており、当初から2人の子供を見ていたので、育児の自信はありましたし、夢を叶えて欲しいので私は賛成しました。それから、妻は三交代をしながら猛勉強。それを見て私も頑張って育児をしないと！！と思っていました。掃除、洗濯、お風呂、食事、保育園の送迎、買い物、なるべく妻に負担がかからないようにとやってきました。同僚や友人が私に「お母さんやね～」って言うてました。ところが、子供たちと接すれば接するほど、自分がしないと、と思えば思うほどイライラすることが多くなり、子供たちにあたってしまいました。それからしばらくして、妻は見事合格しました。本当に頑張った甲斐があったと私も喜びました。しかし、学校へ行くようになるとまったくといっていいほど妻が子供と接する時間はなく、朝は早く帰りは遅く、子供たちの寝顔しか見れない日々になってしまいます。おまけに、現場実習で1ヶ月間家に帰ってこないことを聞かされました。それを聞いた時、正直今の自分に出来るのか、怒ってばかりで子供たちは言う事を聞いてくれるのか、自分は悪い父親だ・・・そんな事を考えたら不安で溜まらなくなり妻の前で泣いたこともありました。そんな時、お互いの両親が「子供たちを預けにおいで。いつでも見るよ」と言ってくれたので、気持ちが一変しました。全てを自分で見よう、親だから自分が見なきゃ、と思っていたことでどんどん自分で追い込んでしまっていました。それからは、休日は両親に助けをもらいながら半年間を過ごしていきました。おかげで、イライラすることなく子供たちと過ごせたと、さらに仲良くなれたように思います。保育園の行事もたくさん参加出来ました。</p> <p>妻は無事学校を卒業することができ、長いようで短かったパパがママ生活が終わりました。でも、これからもパパがママでもいいかなあって思ってます♪</p>	滋賀県	優秀賞
43	藤原 義朗	母子手帳点字版の申請から	<p>街には安室奈美恵とサムスのポスター「育児をしない男を父とは呼ばない」が貼られている。我が家に娘、沙和香を授かったのは1998年9月のことである。</p> <p>私は視覚障害1級でほとんど視力は無い。妻は晴眼者である。1980年代から障害者運動をスタートした私は、母子手帳の点字版発行に関わったこともある。</p> <p>妻が妊娠して、市役所へ母子手帳点字版の申請をした。しかし、母子保健法により、「母親に給付」とのことで却下された。このことは市議会にも上がり、やっと点字版を手にするようになる。中身は言うまでもないが、大切なことがいっぱい書いてある。発達曲線が点図で描かれていたし、記録しなければならぬこともある。</p> <p>さて、おむつ交換、沐浴、離乳食など次々と課題はやってくる。障害児の発達保障は不十分ながらあるが、障害のある親の子育て保障は少ない。特に障害のある父親への保障はほとんどないことを知った。</p> <p>それから、子どもが動き始めたら居場所確認。幼稚園や学校へ行ったら、届く文書の音声化や行事参加など次々と難題がやってくる。</p> <p>さて、このような時、工夫のことや音声保障について要望すると、「男の癖に」「奥さんにしてもらえばいい」など言う人もいる。言わずとも雰囲気を感じられる。</p> <p>これからも、まだまだハードルを跳び越えねばならないだろう。これは、娘が私にくれた社会に残す仕事。どんどんチャレンジして行きたい。</p>	高知県	優秀賞

No	ニックネーム	タイトル	エピソード	出身	賞
66	テコ入れパパ	おはようノート	<p>僕の朝は早い。いつも6時には家を出て仕事に向かう。</p> <p>そんな早朝、子どもたちは、もちろんまだ夢の中。だから、子どもたちへの朝の挨拶は、いつも一方。「おはよう！今日もたのしい1日になりますように！」と願いを込めて、天使の寝顔に向かってささやくのが日常だ。</p> <p>ある時から、僕は「おはよう」をノートに書き置きすることにした。新しい言葉を覚えた時には「おめでとう」、予防接種を受けた時には「がんばったね！」と一言そえて、毎朝書き続けた。</p> <p>読めず書けずの子ども相手ゆえ、結局一方の「おはよう」が続き、もうそろそろいいかな、と想い始めていた時のことだった。仕事から帰りノートをめくると、そこに小さな文字が書かれていた。何とか読める「パパおてがみありがとう」という返事だった。</p> <p>双方向の「おはよう」が実現した気がした。うれしかった。</p>	東京都	優秀賞
73	宇佐見 将太	娘をこの手で風呂に入れよう。	<p>私は病院でリハビリの仕事をしています。人生の最終節を過ごす、おじいちゃんやおばあちゃんをたくさん見てきましたし、人生を終えた方もたくさん見てきました。職業柄、「命」や「人生」というものに向き合う機会は多いと思います。</p> <p>しかし、そんな私にとっても、東日本大震災はとても衝撃的な出来事でした。災害派遣医療救護班として現地で活動し、悲惨な光景を目の当たりにして、「明日人生が突然終わることもあり得るんだ。」と改めて思うようになりました。</p> <p>震災から約1ヶ月後、我が家に長女が誕生しました。</p> <p>そのときから私は、ひとつのことを誓いました。 “出来る限り毎日、娘をこの手で風呂に入れよう。”</p> <p>とても小さな誓いかもかもしれません。でも、もし明日自分が死ぬことが分かっていたら、私はきっと子供を風呂に入れたがるでしょう。そして、妻に感謝の言葉を伝えるでしょう。そして、家族との時間を1分でも長く過ごしたがるでしょう。</p> <p>人生は、そんな毎日の積み重ねだと思っています。後悔しない人生を送るために、今日も私はつまらない付き合いを断り、家路を急ぎます。</p> <p>私は長女に「芽生（めい）」と名付けました。私たちの小さな芽が、優しく、強く生きていってほしいと願って。</p> <p>私はこれからも、自分の人生を大切に、家族と一緒に思いっきり楽しんで過ごしていきます。そして、東日本大震災を絶対に忘れません。</p>	岐阜県	優秀賞
85	ティラミス	イクメン感謝状	<p>世の中にイクメンブームが広がる中、うちの主人はバリバリの仕事人間です。いえ、正確には、仕事人間でした。社会に出て以来、休暇もとらず、帰りはいつも午前様。週末でも、風邪を引いても、結婚式の日も、子供が生まれた日でさえ、全く仕事をしないという日はなかったように思います。それでも、主人が外で稼ぎ、私は専業主婦として家を守るというスタイルで、なんとか頑張ってきました。</p> <p>ところが、働き始めて10年、32歳になった主人の体は、ついに悲鳴をあげたのです。5月下旬から「最近疲れがとれない」と言うようになり、6月の半ばには、数メートル歩くだけで息があがり、立ってられないほどに悪化しました。検査の結果、パセド一病と判明。甲状腺の異常で、動悸、息切れ、めまい、頭痛、手足の震え等、様々な症状が出る病気です。平常時の心拍数は100を超え、1ヶ月で10キロも体重が落ちました。医者から2ヶ月の自宅療養を勧められ、主人の長い夏休みが始まりました。</p> <p>この時、長男が4歳、二男が2歳、娘は生後2ヶ月。私は途方に暮れました。病気は治るのか、家計はどうなるのか、子供達に何と説明すればよいのか、胸が塞がる思いでした。ですが、小さい子供が3人もいれば、悩む暇ありません。長男を幼稚園に連れて行き、やんちゃ盛り二男を遊ばせ、首の座らない赤ちゃんのお世話をし、夜中も授乳で1～2時間おきに起きる日々。主人も私も実家が遠く、頼れる親戚もいませんでした。おまけに、ほどなく長男の幼稚園が夏休みに入り、エネルギーの有り余る息子達と赤ちゃんのケアで、私は精神的にも肉体的にも疲れ果てていました。</p> <p>幸い、すぐに薬が効き始め、主人は少しずつ動けるようになりました。療養中とはいえ、子供達はお父さんが家にいることが嬉しくて、遊んでほしくてたまりません。寝室に行ったら「お父さん、野球しよう！サッカーしよう！」と主人にせがみました。これでは療養などできません。でも、ここからが主人の本領発揮です。「できない理由より、できる方法を考える」という信条を基に、見事なイクメン力を見せてくれました。</p> <p>例えば、布団に座ったままキャッチャーとなり、キーパーとなって、息子達の放つボールを受けて、炎天下に出ることなくボール遊び。一汗かいたら、父子でかけ算九九を口ずさみ、ことわざカルタを広げて読み上げる。さらに、病床でパソコンを立ち上げ、漢字や足し算引き算のゲームをプログラミングして、息子専用のオリジナルゲームを開発。子供達はそのゲームで遊んでいる間に仮眠をとる、といった具合。</p> <p>体調の良い日には、児童館や幼稚園の園庭解放に息子達を連れて行ってくれました。子供達は、父親ならではの遊びや言動が新鮮だったようで、目をキラキラ輝かせて父親について回りました。また、「平日のランチは料金がお得だし、みんなで美味しいものを食べて元気を出そう！」と言って、よく近くのホテルのランチにも連れて行ってくれました。</p> <p>病気で辛いはずの主人が、子供達を楽しませる方法を考え、産後の私を気遣い、充実した夏休みをプロデュースしてくれたのです。</p> <p>夏が終わる頃には、長男は簡単な漢字を読み、計算ができるようになりました。二男は、ことわざや英単語を覚え、心なしか男の子らしい顔つきになりました。娘は、お父さんに抱っこされると、安心して眠るようになりました。こうして2ヶ月が経ち、体調が安定して、9月から職場に復帰することができました。現在は、体の声に耳を傾けながら、ウィークデーはビジネスマンとして、週末はイクメンとして元気に頑張っています。きっかけは病気でしたが、仕事一筋だった主人がイクメンとなり、結果的には今までで一番楽しい夏休みを過ごすことができました。私は、主人にいくら感謝してもきれません。</p> <p>今回このコンテストに応募することになったのは、そんな私達の姿を見守って下さっていた幼稚園の園長先生から勧めて頂いたからです。我が家の最高のイクメンに、心からの感謝と敬意を表したいと思います。「ありがとう、お父さん。」</p>	東京都	優秀賞
19	原 康長	雨の朝	<p>“イクメン”などという言葉はもろもろなかった40年前のこと。かなり強い雨が降る朝、私は長男をおぶって団地の中を歩いていた。すると、乗用車が寄ってきて窓を開け、大きな声で「乗っていきませんか」と声をかけてくれた。私は、預け先がもうすぐだったので、お断りした。でも、うれしかった。男が子育てに役割を果たすのはまだ珍しい頃だった。車の人はどんな人だったんだろうと、想像するしかないが、あの時のうれしさは、子育ての記憶のなかで忘れられないひとコマである。長男は42歳となり、目下、子育てに奮闘中である。</p>	埼玉県	優秀賞

No	ニックネーム	タイトル	エピソード	出身	賞
76	KAZU/パパ	育休のホントの価値	<p>育休、取った。生後4ヶ月から、9ヶ月間。 最初の2ヶ月は、ママと一緒に。残りは僕一人で。</p> <p>離乳食、僕が全部作った。大変だった。</p> <p>でも、子供が最初に喋った言葉は「パパ」だった。 立ち上がったたり、歩いた瞬間を見たのも、僕だった。</p> <p>子供の写真、僕が撮ったものの方が多い。 ついでに、近所のママ友も、僕の方が多い。</p> <p>子供と二人で過ごした7ヶ月は 思い出いっぱいの忘れられない、時間。</p> <p>でも。 ママと一緒に育児した最初の2ヶ月が 実はすごく大切な時間だったんだと今になって改めて思う。</p> <p>育児や家事の分担のこと。子供の教育方針のこと。 お互いのキャリアのこと。 あの時じっくり話し合えたから お互い忙しくても、同じ方向を向いて 二人で仕事と家庭の両立が出来たんだと思うな。</p>	東京都	優秀賞
33	きいちのパパ	試されたイクメン	<p>子どもが六ヶ月の頃、私は妻と交代で育休を取得しました。育児は厳しく、うなだれることもありましたが、周りの人の助けで、子育てを楽しむゆとりが出てきました。そんなある日。洗濯物を干していると、後ろでカチャと音が。振り返ると、0歳児の息子が遊んでいるうちに窓の鍵を閉め、パパがベランダに閉めだされてしまいました。窓の外から子供に開けて！と叫ぶも通じず、なんとか脱出して、子供を叱ろうとした時、子どもは満面の笑みでパパを迎えてくれました。このときに、子育てって理屈ではないんだなあと共に、いろいろ試されてると感じました。</p>	沖縄県	優良賞
50	佐藤士文	育児デビュー	<p>「本当に大丈夫？」</p> <p>僕が育児休暇に入る前、不安そうな顔で妻から言われた。</p> <p>共働きの僕らは、二人で育児休暇を交代で取り、協力し合って育児をする事に決めていた。妻の育児休暇が終わり、4か月になる息子を僕が引き継いだ初めての日、息子に一日中泣かれた事を覚えている。妻が心配するのも無理はなかった。</p> <p>泣かれてはあやし、泣かれてはあやし、を繰り返す日々が始まった。 いつも泣き疲れて寝る息子を見て、泣く事なく寝させてあげたく、様々な方法を試すもことごとく失敗に。そんな調子で数日が経ち、やっぱりママじゃなきゃダメなのか、、、と諦めそうになったある日、抱きながらあやしていた息子が自然と僕の胸に顔を埋めて、やがてスヤスヤと寝むりだす。</p> <p>「ついにやったぞ！」と心の中で歓喜の叫びをあげつつ、忍び足で息子を布団の上へ。</p> <p>安らかな顔をして眠る息子はまるで天使のよう。 この寝顔を見る事ができるならば、僕はどんな努力も惜しむまいと思った。</p> <p>息子と二人きりで過ごす時間が深まるにつれ、息子は僕に慣れていき、泣く回数も減り、僕を後追いするまでに。僕が息子をみる事に最初は不安がっていた妻も、今は僕を信頼して任せてくれ、最近では僕と息子をおいて1泊2日の女子旅行に出かける事も。。。</p> <p>少し不安がらせた方がよかったかな？</p>	神奈川県	優良賞
65	齋藤早苗	夫の一言	<p>子どもが4歳、2歳で、仕事と同時に大学院受験の準備をしていた頃のこと。 私は日々の生活にきりきりまいなのに、夫は家事育児をしているものんびりモード。 それにイライラして、週末の子育ては夫にまかせっきりにしたことも。</p> <p>無事受験が終わった日、一緒に台所に立ち、洗い物をしていた時、夫が「ごめんね」と。 「俺は、家事も育児も、他の男よりよくやってるって思ってたけど、君ほどにはしてなかった。 気がつかなくてごめんね」</p> <p>その一言で私も、自分のイライラした気持ちの原因がわかり、 子育てするパートナーとして、ちゃんと彼と向き合えたように思った瞬間でした。</p>	東京都	優良賞
69	しゅうなぎパパ	やってみるとホント大変！	<p>1年の育児休業を取得して、まずは家事（料理）の大変さに気づかされました。 一生懸命考えて作った夕食について感想も何も言わないで食べられる虚しさ。私もこれまでそうでした。 「おいしい」とかの一言があれば作る方も違います。何か一言でも声かけを。</p> <p>あと、毎日の食器洗いによる手のアカギレなど。実際にやってみないとこの大変さはわかりません。 これまで女性が担ってきたであろうこの仕事は半端なく大変です。</p> <p>子育てはわかっているつもり、イライラして怒ってしまうことが多いです。 そんなときでも子どもたちはお絵描きの時に頼まれたものを書いてあげたときなどいつも「お父さん凄い！」とちょっとしたことで褒めてくれます。</p> <p>そんな子どもたちに教えられることも多い子育てですが、やっぱり育児休業を所得して子育てに関わったことは今後の人生にも必ず役に立ってくれると思います。 また、日頃の妻の家事育児のフォローもあって、何とかやっていけていると思うので、大変感謝しています。</p>	鳥取県	優良賞

No	ニックネーム	タイトル	エピソード	出身	賞
70	ドク田ヘリ夫	医師が育休を取ってもいいじゃないか！	<p>北海道から親戚の全くいない沖縄に来て5年が経った春、妻に11年ぶりの妊娠が発覚した！とても感激したのだが、そのとき頭に浮かんだのは「さて、出産、どうしよう・・・。(。_。)」という言葉。長女は小五のため、里帰り出産は無理。また、親もまだ仕事をしているため長期の手伝いは困難・・・。</p> <p>そして、私の仕事は医師、救急医。</p> <p>しかし、続いて頭に浮かんだのは、</p> <p>「あ、そういえば、某県の救急医学の教授が以前、育児休暇を取っていたではないか！」</p> <p>ということ。急いでその教授の文章を読み、続いて職場の育児休暇に関する資料を読んだのだが、もちろんどこにも</p> <p>「医師（夫）の取得は認めない。」</p> <p>という一文は無し！つまり、私にも取得の権利あり！</p> <p>さらに、ある飲み会の場で理事長に「育児休暇を取りたいのですが・・・」と言ってみると、酔っているとはいえ、「う～ん、1年とかは困るけど、1、2ヶ月なら問題は無いよ」とのお言葉を頂いた。その後、同僚にも自分の気持ちや状況を伝え、上司や多くの仲間から快諾して頂けたのだった。本当に嬉しかった！</p> <p>医師も人間、同じ勤務先の医師以外の職員と同じ権利を有している。そして、患者さんも大事だが、自分の家族も大事なのだ。今後は育休のみならず、同僚が困ったとき、休みを取るべき時にはお互いが気持ち良く休めるように、そんな職場環境作りのためのお手伝いもしていこうと強く思った。</p> <p>今回の自分（救急医）の育休がきっかけとなり、</p> <p>「医師であっても育休は当たり前」</p> <p>という世の中になっていけば良いと思う。</p> <p>・・・あ、でも、教授でも無いし、影響力のある医師じゃないので無理か。（笑）</p>	沖縄県	優良賞
72	ぷり	成長と感謝 2人目出産を とおして。	<p>昨春、2人目の妊娠がわかった。 同時に、子どもが2人になる、その変化に私自身が対応できるのか、正直不安でいっぱいだった。 実家や親戚は我が家から遠く、両親も仕事についているので頼めることは限られる。 1人でさえ大変だったのに、2人となれば身が持たないのではと、不安というより育児に対する恐怖に近いものがあった。 この心配が消え、安心して出産に臨めたのは旦那さんの育児休暇取得を聞いたからである。 仕事が並行する期間もあったが、彼は育児によく関わってくれ、家事を主導してくれた。 帰宅後の夕飯、一時保育に預ける上の子のお弁当作り、下の子の沐浴、寝かしつけの協力など。 彼のおかげで産褥期間を穏やかに過ごせ、体をしっかりと休ませることができた。 2人目の出産後、1人目の子の行動が気になり、なにかにつけてきつくあたりがちだった。 それが緩まり、子どもに対して広い視野を持つことができたのは、旦那さんとの対話の成果であり、家事・育児の両面を彼が支えてくれている、彼が参加しているという安心感からであると思う。 私が母親として成長していくことができるのも、育児の悩みを共有し、一緒にがんばっていける旦那さんがいるからだ。</p>	東京都	優良賞
74	ちえぼぼ	スーパーパパ★	<p>うちのパパはイクメンかつ愛妻家☆</p> <p>妊娠中、つわりがひどくてほぼ寝込んでいた私。 家事は全部やってくれて、さらには私のお世話を甲斐甲斐しくしてくれました。 そして、職場ではまだ前例のない、育児休業後の6時間の時短勤務を申請し、職場と少し話が折り合わず受け入れてもらえなかった時も、同じ職場で働くパパが登場！！ パパが職場と話し合いをして、時短勤務が受け入れてもらえました。 その後、私が切迫早産で2ヶ月入院した時は、仕事が終わると車で30分の道のりを毎日欠かさず私のお見舞いに来てくれました。</p> <p>出産時ももちろん立ち会い、助産師さんさながらに陣痛、出産を助けてくれて、気弱になった私をしっかりサポート！！</p> <p>産後もオムツかえ、ミルク、毎日のお風呂はもちろんのこと、夜泣きにつきあってくれたり、すべての育児を一通りこなせるイクメンパパでしたが、最近さらにスーパーイクメンに進化！！</p> <p>便秘がちなムスメの綿棒浣腸までこなし、さらには胃腸風邪で寝込んだ私の介護をしながら、家事、育児（離乳食作りや夜の寝かしつけ、夜泣きの対応まで）を全部1人でやってくれた、まさにスーパーイクメンなパパです（^^）</p> <p>本人曰く、欠点はパパにおっぱいがついていないことだそう（笑）</p> <p>そんなスーパーイクメンのパパに「ほんとのイクメンはもっとすごいんだから！」とウルトライクメン説を説き、さらに進化をとげさせようとする鬼嫁な私です。</p> <p>ごめんね、パパ、いつも感謝しています☆ ウルトライクメンを目指して頑張るね！！</p>	岐阜県	優良賞
81	おさる	知ってる	<p>育児とは、子供と相対し自分も育つ事のようなのです。 ある日、幼稚園の娘に注意をしたら、「知ってる。」との返事。 父：「学ぶ姿勢が無いから、いつまでも出来ないんだ・・・」 娘：「解ってるよお。」 この会話を聞いていた家内が、 家内：「そんな言い方しても、まだ幼稚園年中だし。」 父：「知ってる。」 家内：「他に言い方があるんじゃないの。」 父：「解ってる。」 家内：「あの子の返事は、全部あなたの口癖よ。」 父：「えっ・・・反省します。」 ”子は親を映す鏡”とはよく言ったもので、自分を振り返り一緒に成長させてもらっています。</p>	東京都	優良賞

No	ニックネーム	タイトル	エピソード	出身	賞
90	アラトモ	フルタイムイクメンの覚悟	<p>12月のある日のこと。</p> <p>主人は夕方4か月になった子供をあやしていました。 子供はミルクの時間でもないのに急に機嫌が悪くなって泣き出しました。所謂夕方コリックだったのかもしれませんが。いつもならそこで私が代わって泣き止ませるのですが、1月から仕事に復帰する私に代わって「フルタイム」で育児をしなければいけない主人は「ひとりで泣き止ませられなかったらこの先困る」と言ってそのまま子供をあやし続けました。ところが、泣き止むどころか機嫌の悪さはエスカレートし、どうにも手が付けられない状態になってしまったのです。私は子供が可哀想になり、口論の末結局子供を主人から取り上げて泣き止ませてしまいました。</p> <p>その後彼はひどく落ち込み、夜になってもあまり眠れない様子でした。 「どうしたの？」と聞くと、少し黙ってから 「明日から自分の時間はいらないよ。」と小さな声で言いました。「その時間を子供と一緒にいることにする。今が大切だから。」</p> <p>次の日から本当に彼は趣味に時間を割くことなく、子供と一日の大半を過ごすようになりました。</p> <p>あれからひと月。 今では「パパでないとダメ」と子供が感じているように見えるほど、子供にとって彼が特別な人になりました。 私は会社で主人のことを話すと、同僚のパパたちは決まって「信じられない」と言います。パパにママの代わりは出来ないのだと。</p> <p>最近主人はこう言います。「覚悟の違いだよ」と。 「ふつうのパパは何かあったらママに代われるけど、俺はそうはいかないからね。」</p> <p>私は主人を尊敬し、そして感謝しています。子供にとってはパパもママも役割に違いはないのだなと実感している毎日です。</p>	千葉県	優良賞